

令和4年

火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

目 次

[火災概要]

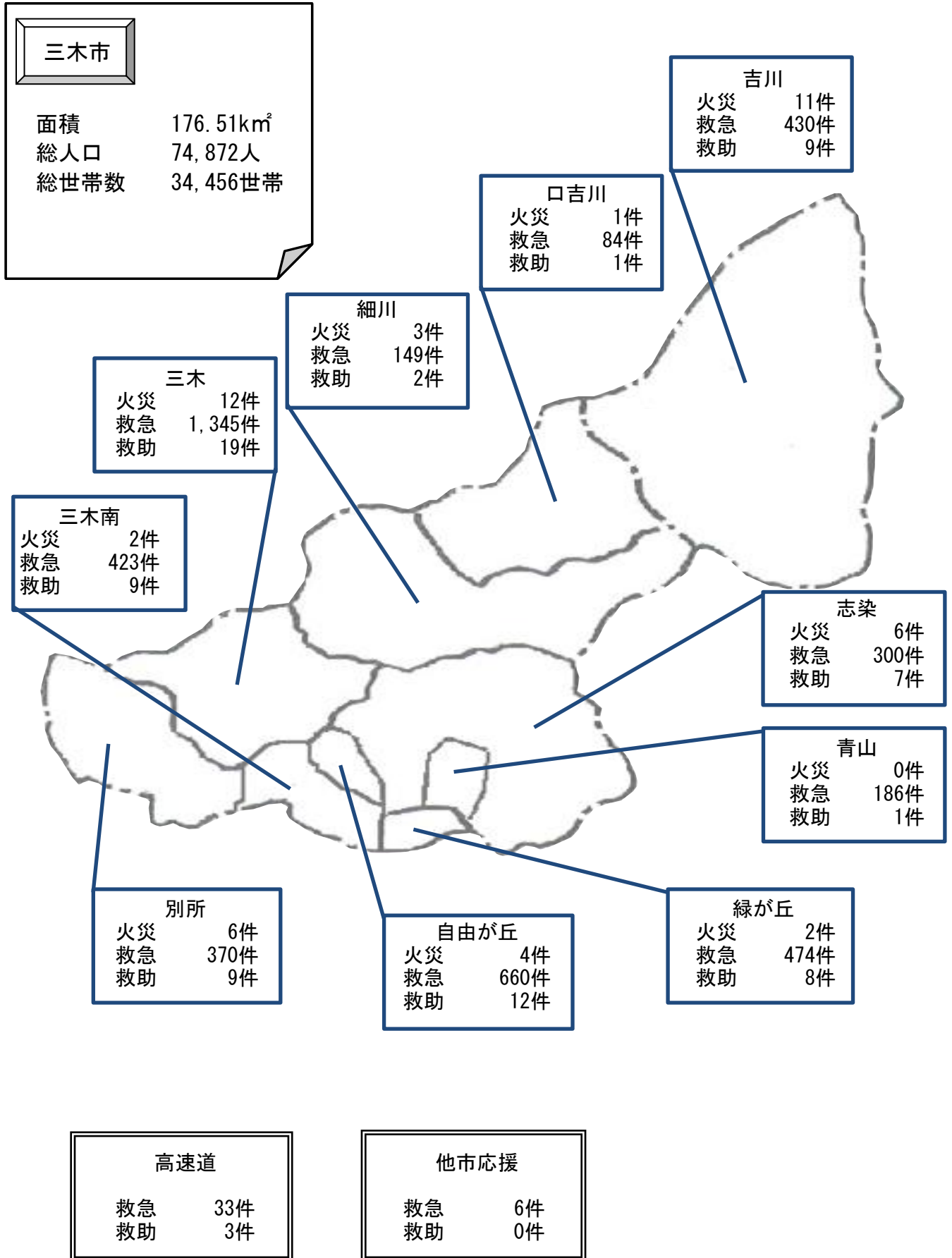
地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和4年中の火災概要	… 2~3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
地区別出火件数	… 5	出火原因別件数	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
四季別出火件数	… 6	火災による死者数(10年間)	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	主な火災発生状況	… 10
曜日別出火件数	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
時間別出火件数	… 7	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
署別出火件数	… 7		

[救急・救助概要]

令和4年中の救急・救助概要	… 12~14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

地区別発生件数

〔人口・世帯数については
令和4年12月31日現在〕



令和4年中の火災概要

1. 概況

令和4年中の出火件数は47件で、損害額は57,536千円、建物焼損床面積3,159㎡、林野焼損面積64a、り災世帯15世帯、り災人員29人となっています。

2. 出火件数

(1) 出火件数

出火件数は47件（前年比21件増）で、7.8日に1件の割合で発生しています。

出火率（人口1万人当りの出火件数）は6.28ポイント（前年比2.84ポイント増）となっています。

(2) 火災種別毎の出火件数

建物火災23件（49%、前年比8件増）が最も多く、次いでその他火災10件（21%、前年比3件増）、林野火災8件（17%、前年比5件増）、車両火災6件（13%、前年比5件増）となっています。

建物火災の内訳は、住宅11件、工場5件、その他建物7件となっています。

(3) 死者・負傷者

令和4年中の火災による死者は4人（前年比2人増）、負傷者は6人（前年比2人増）となっています。

(4) 焼損棟数

焼損棟数は51棟（前年比31棟増）で、全焼棟数は27棟（前年比23棟増）となっています。

(5) り災世帯・り災人員

り災世帯は15世帯（前年比3世帯増）で、り災人員は29人（前年比5人増）となっています。

(6) 焼損面積

建物焼損床面積は3,159㎡（前年比2,386㎡増）で、林野焼損面積は64a（前年比775a減）となっています。

(7) 出火原因

出火原因は、「たき火」が11件、「その他」が6件、「電気機器」が4件、「電灯・電話等の配線」「こんろ」が各3件、「たばこ」「放火の疑い」が各2件、「ストーブ」「電気装置」「マッチ・ライター」が各1件、「不明（調査中含む）」が13件となっています。

(8) 損害額

火災による損害額は57,536千円（前年比35,573千円増）となっています。建物損害額（収容物含む）は44,603千円（前年比23,198千円増）で、建物火災1件あたりの損害額は1,939千円（前年比512千円増）となっています。

3. まとめ

令和4年中の出火件数は47件（前年比21件増）、損害額は57,536千円（前年比35,573千円増）、火災による死者は4人（前年比2人増）、負傷者は6人（前年比2人増）です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけていただくことが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火からの火災を防ぐためには事前に水バケツなど消火用具を準備し、周囲の地形等の調査及び近隣住民に知らせておく必要があります。火を扱う行為を安易に考えず、慎重に実施していただくことが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ21件増加。火災種別では建物火災が8件、林野火災5件、車両火災5件、その他火災が3件増加しています。

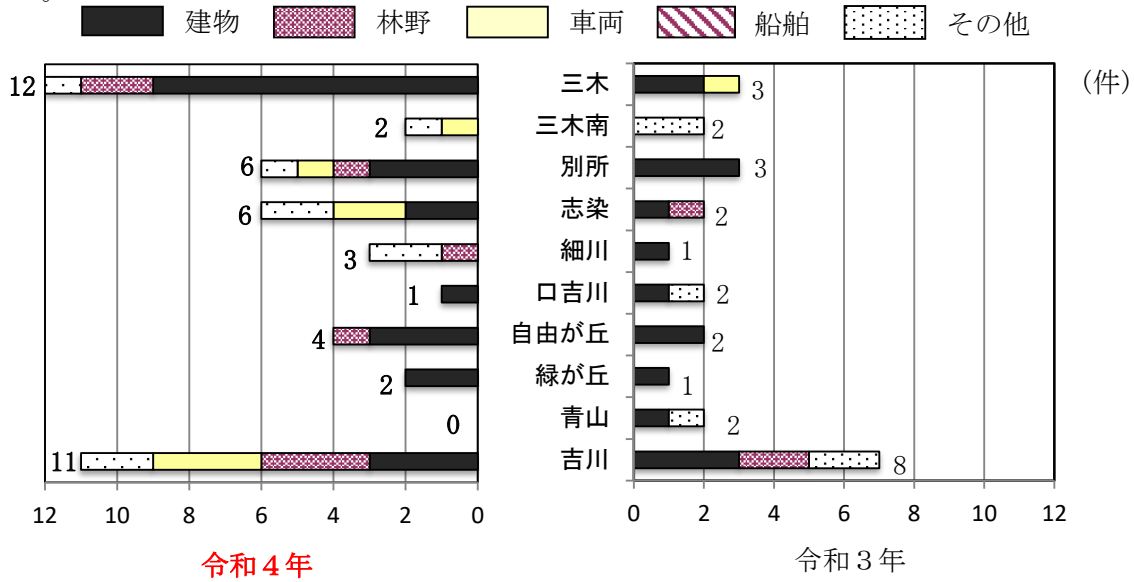
区 分	単 位	令和4年	令和3年	増 減
出 火 件 数	件	47	26	21
建 物	〃	23	15	8
内	住 宅	11	8	3
内	工 場	5	1	4
内	その他	7	6	1
林 野	〃	8	3	5
車 両	〃	6	1	5
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	10	7	3
損 害 額	千円	57,536	21,963	35,573
建 物	〃	44,603	21,405	23,198
内	建 物	25,184	19,169	6,015
内	収 容 物	19,419	2,236	17,183
林 野	〃	0	0	0
車 両	〃	10,873	10	10,863
船 舶	〃	75	0	75
そ の 他	〃	1,985	548	1,437
爆 発	〃	0	0	0
建 物 焼 損 棟 数	棟	51	20	31
全 焼	〃	27	4	23
半 焼	〃	0	1	△ 1
部 分 焼	〃	13	9	4
ぼ や	〃	11	6	5
爆 損	棟	0	0	0
車 両 等 数	台	0	0	0
焼 損	m ²	3,159	773	2,386
建 物 床 面 積	m ²	125	252	△ 127
建 物 表 面 積	a	64	839	△ 775
林 野	台	13	1	12
車 両	艇	1	0	1
船 舶	人	6	4	2
負 傷 者	〃	4	2	2
死 者	世帯	15	12	3
り 災 世 帯	〃	5	2	3
全 損	〃	0	1	△ 1
半 損	〃	10	9	1
小 損	人	29	24	5
り 災 人 員	千円	1,939	1,427	512
建 物 1 件 当 り の 損 害 額	m ²	137	52	85
〃 焼 損 床 面 積				

※損害額については、調査中3件を除く。

△ 印は減少

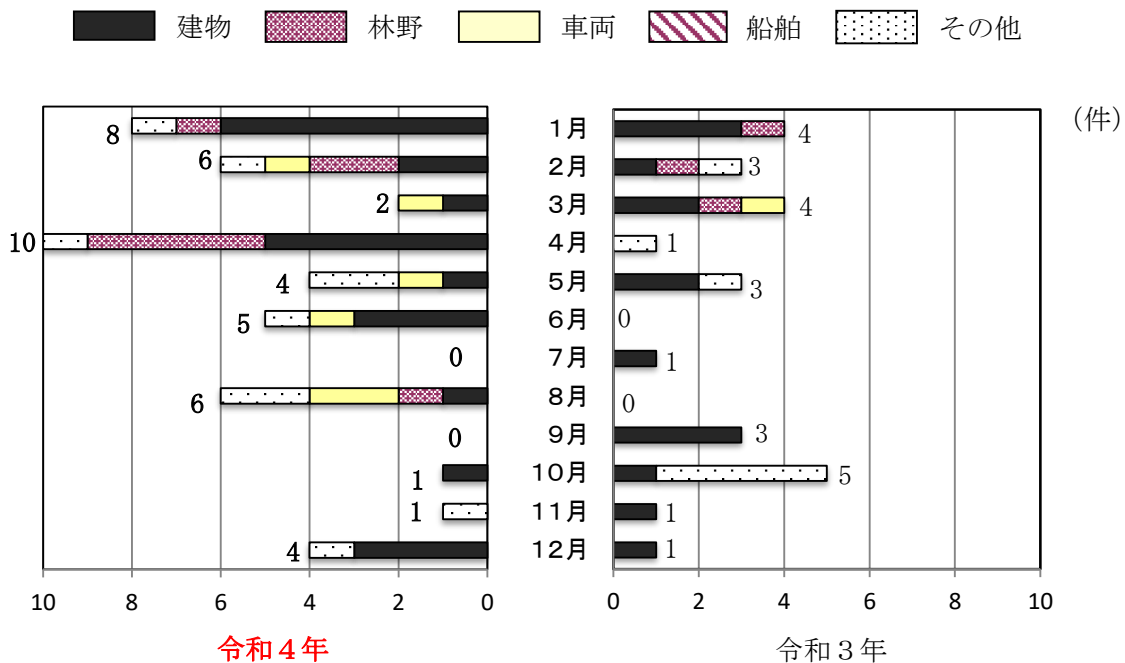
地区別出火件数

前年と比較すると、三木地区、別所地区、志染地区、細川地区、自由が丘地区、緑が丘地区、吉川地区が増加し、口吉川地区、青山地区は減少、三木南地区については増減はありませんでした。



月別火災種別出火件数

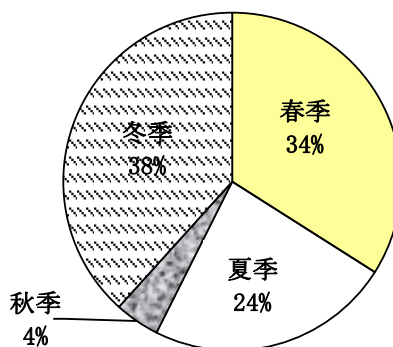
前年と比較すると、1月・2月・4月・5月・6月・8月・12月が増加し、3月・7月・9月・10月が減少しています。



四季別出火件数

春季(3・4・5月)	16 件
夏季(6・7・8月)	11 件
秋季(9・10・11月)	2 件
冬季(12・1・2月)	18 件
計	47 件

出火件数比率

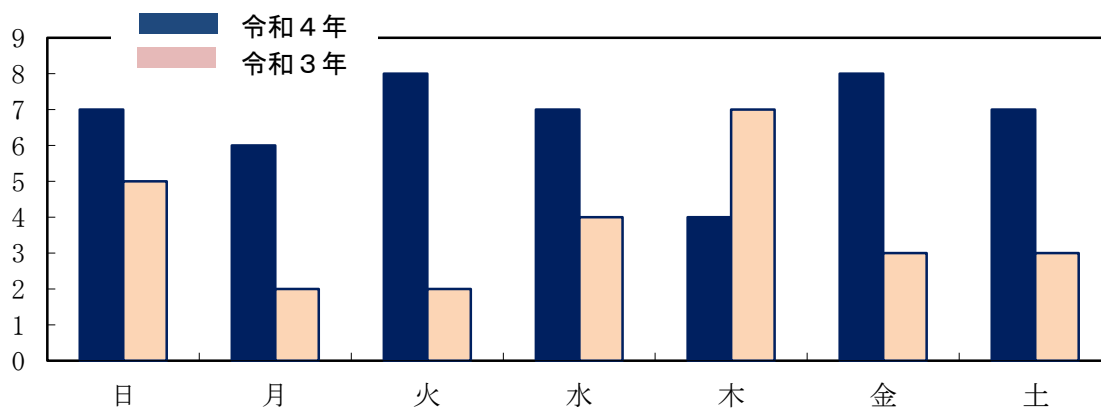


月別出火件数 (5年間)

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和4年	8	6	2	10	4	5	0	6	0	1	1	4	47
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
平成30年	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28

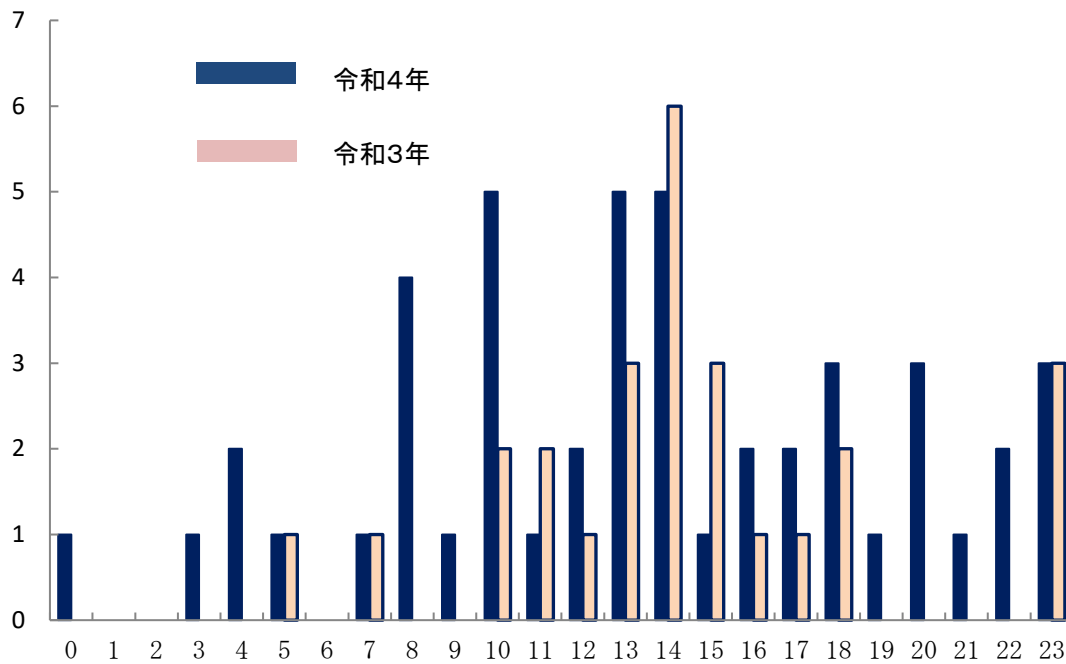
曜日別出火件数

火曜日・金曜日(8件)、日曜日・水曜日・土曜日(7件)に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和4年	7	6	8	7	4	8	7	47
令和3年	5	2	2	4	7	3	3	26

時間別出火件数



年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和4年	1	0	0	1	2	1	0	1	4	1	5	1	2	5	5	1	2	2	3	1	3	1	2	3	47
令和3年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	2	1	3	6	3	1	1	2	0	0	0	0	3	26

署別出火件数

本署は火災件数が18件、広野分署は2件、吉川分署は1件増加となっています。

種別 \ 年	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年
本署	14	6	4	1	2	1	0	0	6	0	26	8
広野分署	5	4	1	0	1	0	0	0	2	3	9	7
吉川分署	4	5	3	2	3	0	0	0	2	4	12	11
合計	23	15	8	3	6	1	0	0	10	7	47	26

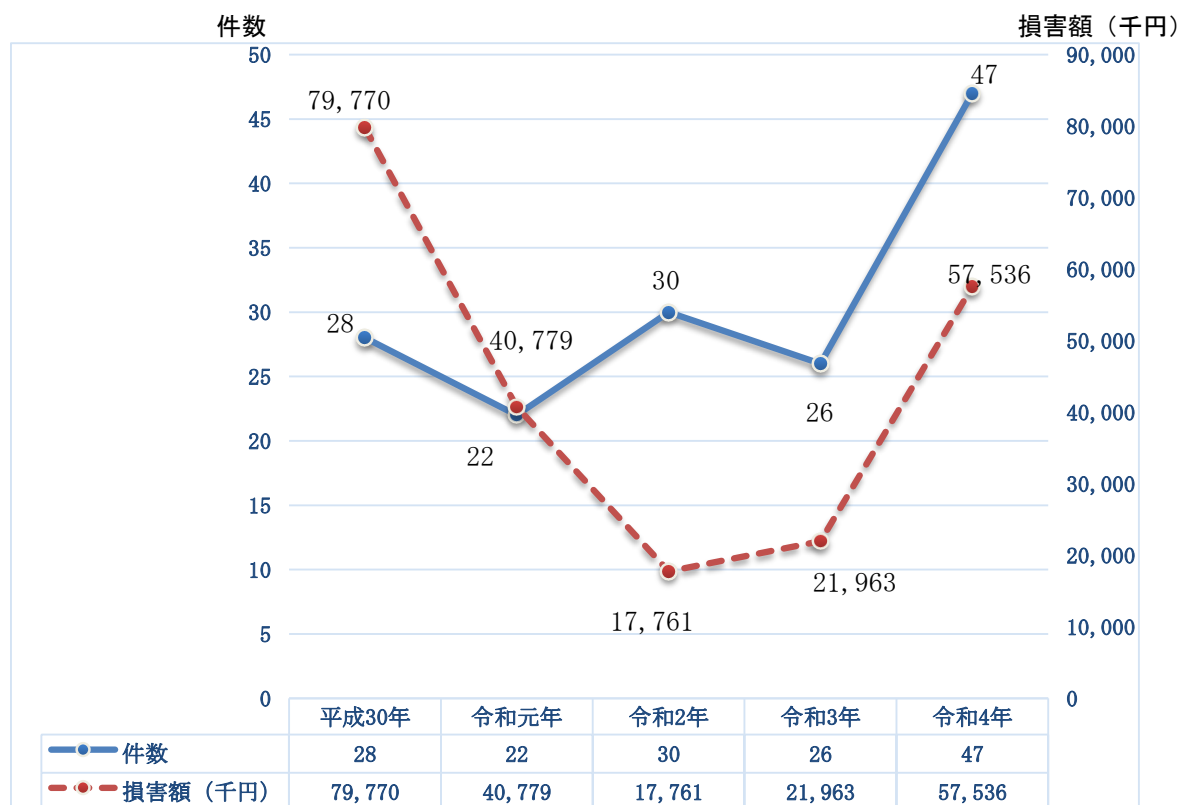
火災による損害額（5年間）

（損害額単位：千円）

項目		年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
火災損害額			57,536	21,963	17,761	40,779	79,770
内訳	建物		44,603	21,405	16,818	38,406	74,185
	林野		0	0	0	0	0
	車両		10,873	10	915	1,863	4,520
	船舶		75	0	0	0	0
	その他		1,985	548	28	510	1,065
1件当り損害額			1,224	845	592	1,854	2,849
出火件数			47	26	30	22	28
内訳	建物		23	15	10	10	18
	林野		8	3	7	4	1
	車両		6	1	4	4	4
	船舶		0	0	0	0	0
	その他		10	7	9	4	5

※ 令和4年火災損害額について、調査中3件は含まれていません。

管内出火件数・損害額の推移（5年間）



出火原因別件数

出火原因のは「たき火」の11件が多く、全体の約23%を占めています。

出火原因	令和4年	令和3年
たばこ	2	1
こんろ	3	
風呂かまど		
炉		1
焼却炉		1
ストーブ	1	
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	4	2
電気装置	1	
電灯・電話等の配線	3	1
内燃機関		1
配線器具		3
火あそび		
マッチ・ライター	1	
たき火 ※1	11	10
溶接機・溶断機		
灯火		
取灰		
火入れ		
放火		1
放火の疑い	2	1
その他 ※2	6	
不明(調査中含む)	13	4
合計	47	26

※1

たき火欄内訳	令和4年	令和3年
たき火	9	5
虫焼火	2	5
合計	11	10

※2

その他欄内訳	令和4年	令和3年
衝撃の火花	2	
摩擦熱	2	
発炎筒	1	
線香	1	
合計	6	0

初期消火の状況

令和4年は47件の火災が発生し、そのうち27件で何らかの初期消火を行っています。

項目	令和4年		令和3年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備				
水バケツ	4			
消火器	9	2	3	2
水道・浴槽・汲み置きの水	7	3	9	5
寝具・衣類等をかけた	1	1	1	1
もみ消した	1	1	1	
その他 ※	5	2		
合計	27	9	14	8
初期消火なし		20		12

※ その他欄内訳 →消火栓, 叩き消す

火災による死者数(10年間)

年 地区	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
三木	3		1		1	1	1	1		
三木南										
別所						1				
志染										
細川		1	1			1				
口吉川										
緑が丘										
自由が丘	1									
青山										
吉川		1								
合計	4	2	2		1	3	1	1		
兵庫県	—	56	53	53	72	57	54	62	70	60
全国	—	1,417	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625	1,721

※令和4年の全国・兵庫県の統計について、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
1/23	建物	8:41	11:51	宿原	木造2階建て住宅が全焼 死者1名が発生
1/29	建物	4:39	6:52	福井2丁目	木造2階建て住宅が全焼 死者1名が発生し、2棟が類焼
2/20	建物	13:39	15:07	福井2丁目	木造2階建て住宅が全焼 死者1名、負傷者1名が発生
6/14	建物	14:38	18:17	別所町石野	作業場及び倉庫約1,600㎡焼損 毒劇物が流出
6/28	建物	23:01	1:03	志染町西自由が丘1丁目	木造2階建て住宅が全焼 死者1名が発生し、1棟が類焼

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は4件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
2/28	車両	0:18	2:34	中国道下り40.5KP	10トントラック1台が焼損
4/20	その他	13:20	13:39	中国道上り42.5KP	中央分離帯法面の枯草が焼損
6/22	車両	4:11	5:20	山陽道西神線下り2.85KP	10トントラック1台が焼損
8/19	車両	23:02	23:32	中国道下り40.0KP	25トントラック1台が焼損

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より63件増加の287件となっています。

種	年	本署		広野分署		吉川分署		合計		増減
		令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	
警戒		119	104	80	52	80	61	279	217	62
応援		2	0	0	1	2	4	4	5	△1
風水害		4	1	0	1	0	0	4	2	2
合計		125	105	80	54	82	65	287	224	63

△印は減少

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和4年中の救急・救助概要

1. 概況

令和4年中の救急出場件数は4,460件（前年比696件、18.5%増）で、搬送人員は4,065人（前年比566人、16.2%増）と、いずれも過去最高となりました。

1日の平均出場件数は12.2件（前年比1.9件増）で、市民約17人に1人が救急車を利用したことになります。

令和4年中の救助出動件数は80件（前年比14件減）となっています。

2. 救急出場件数

(1) 救急出場件数

出場件数は4,460件で、過去最高となりました。

(2) 発生地区別出場件数

三木地区の1,345件（30.2%）が最も多く、続いて自由が丘地区660件（14.8%）、緑が丘地区474件（10.6%）、吉川地区430件（9.6%）の順となっています。

(3) 事故種別出場件数

事故種別では急病2,906件（65.2%）が最も多く、続いて一般負傷782件（17.5%）、転院搬送346件（7.8%）、交通事故249件（5.6%）の順となっています。

(4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では12月の440件が最も多く、続いて7月の418件、8月の413件の順となっています。最も少ないのは2月の305件です。

曜日別では土曜日の673件が最も多く、続いて木曜日の652件、水曜日の639件です。最も少ないのは日曜日の607件です。

時間別では10時台の331件が最も多く、続いて9時台の328件、12時台の313件です。最も少ないのは0時台の59件です。

(5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は8.3分（前年8.0分）、5分以上10分未満のものが2,853件（64.0%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が1,025件（23.0%）となっています。

(6) 病院収容所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は43.8分（前年40.6分）、30分以上60分未満のものが2,669件（65.7%）と最も多く、続いて20分以上30分未満が735件（18.1%）となっています。

3. 救急搬送人員

(1) 傷病程度別搬送人員

軽症2,103人（51.7%）、中等症1,810人（44.5%）、重症109人（2.7%）、死亡43人（1.1%）の順となっています。

(2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,607人(64.1%)が最も多く、続いて一般負傷732人(18.0%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,788人(68.6%)を占めています。

(3) 性別科目別搬送人員

男性2,217人(54.5%)、女性1,848人(45.5%)で、369人男性を多く搬送しています。

内科2,213人(54.4%)が最も多く、続いて整形外科680人(16.7%)、脳神経外科672人(16.5%)の順となっています。

4. 応急処置件数

搬送人員4,065人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ16,396件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は169件(前年比11件増)となっています。

5. 救助件数

(1) 救助出動状況

出動件数は80件(前年比14件減)で、救助人員40人(前年比6人減)となっています。事故種別では、建物等による事故が39件(48.8%)と最も多く、続いて交通事故22件(27.5%)となっています。

(2) 地区別救助出動件数

三木地区が19件と最も多く、続いて自由が丘地区12件、三木南・別所・吉川地区が9件となっています。

(3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が43件(53.8%)で、道路での事故が16件(20.0%)となっています。

6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

また、消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、医師による指導、助言、事後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

7. まとめ

救急出場件数は4,460件で、前年の出場件数より696件増加しました。

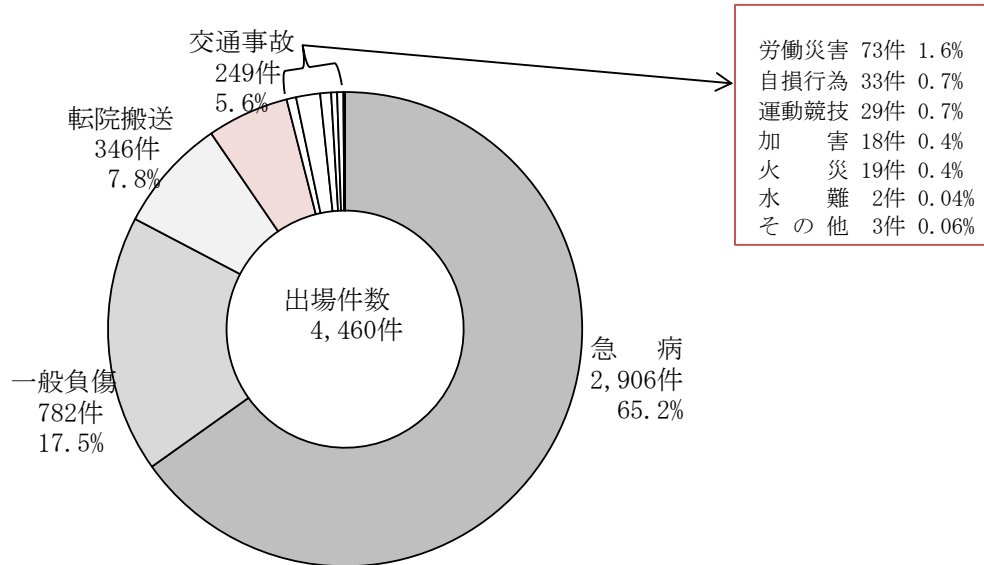
全搬送人員に占める高齢者の比率は68.6%（前年66.2%）で、過去最高比率となっています。

救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、救急法講習会、普通救命講習、上級救命講習を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数377件のうち176件と全体の46.7%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数4,460件のうち急病が65%以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	令和4年	令和3年	令和2年
出場件数	4,460	3,764	3,622
三木	1,345	1,065	1,049
三木南	423	342	338
別所	370	373	337
志染	300	285	262
細川	149	141	116
口吉川	84	89	97
緑が丘	474	404	393
自由が丘	660	509	520
青山	186	169	154
吉川	430	353	331
高速道	33	27	19
その他	6	7	6

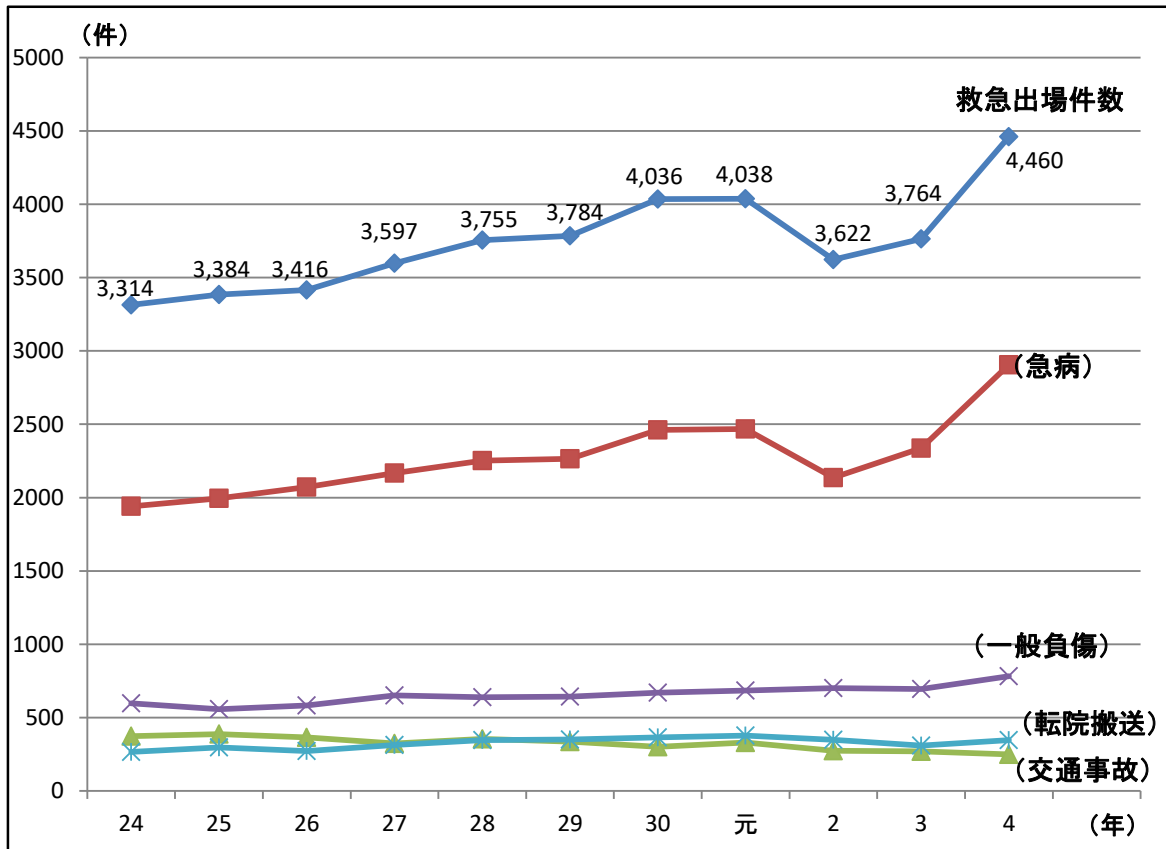
署別救急出場件数

出場割合は、本署56.0%、広野分署32.5%、吉川分署11.5%となっています。

事故種別	本署	広野	吉川
火災	15	3	1
自然災害	0	0	0
水難	2	0	0
交通事故	140	70	39
労働災害	49	9	15
運動競技	17	9	3
一般負傷	407	255	120
加害	12	5	1
自損行為	18	13	2
急病	1,640	987	279
その他	197	98	54
合計	2,497	1,449	514

救急出場件数の推移

救急出場件数は4,460件で、前年比696件増加となっています。



事故種別救急出場件数

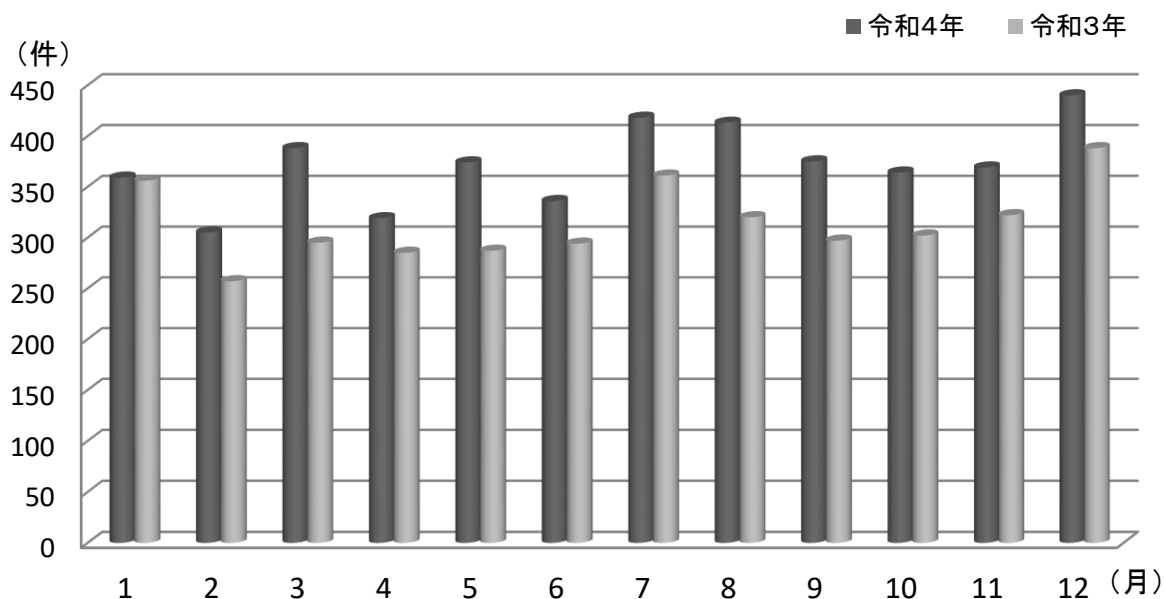
急病が昨年より570件増加しています。

事故種別		令和4年	令和3年	増減
火災		19	10	9
自然災害		0	0	0
水難		2	2	0
交通事故		249	270	△21
労働災害		73	71	2
運動競技		29	37	△8
一般負傷		782	694	88
加害		18	11	7
自損行為		33	20	13
急病		2,906	2,336	570
その他	転院搬送	346	309	37
	医師搬送	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0
	その他	3	4	△1
合計	4,460	3,764	696	

△印は減少

月別救急出場件数

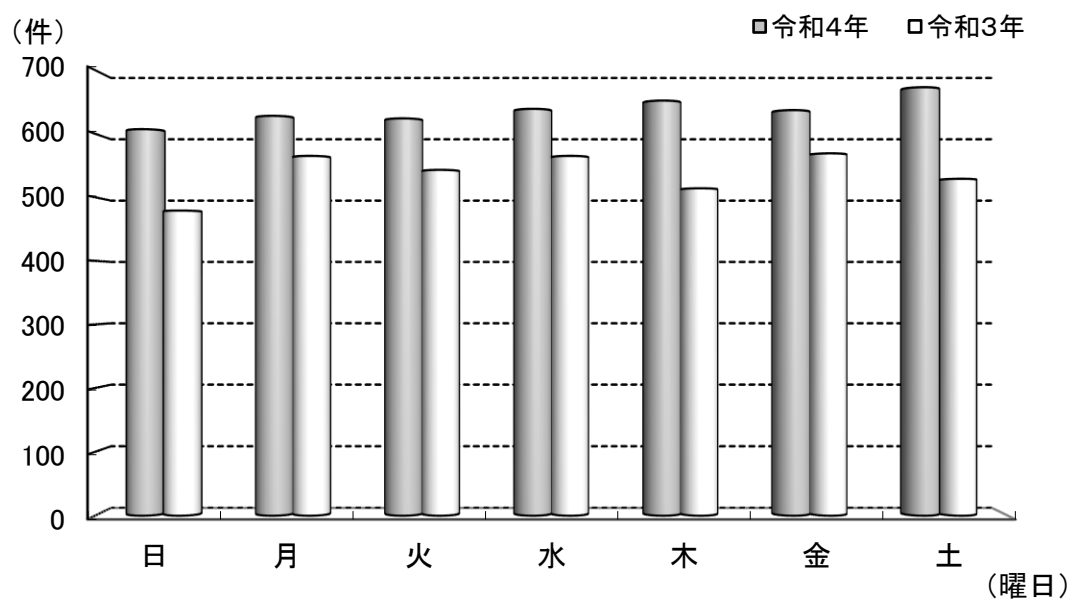
12月が最も多く、続いて7月となっています。最も少ないのは2月です。
1ヶ月平均371.7件、1日平均12.2件出場しています。



年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和4年	359	305	388	319	374	336	418	413	375	364	369	440	4,460
令和3年	356	257	295	285	287	294	361	320	297	302	322	388	3,764

曜日別救急出場件数

土曜日が最も多く、続いて木曜日となっています。最も少ないのは日曜日です。

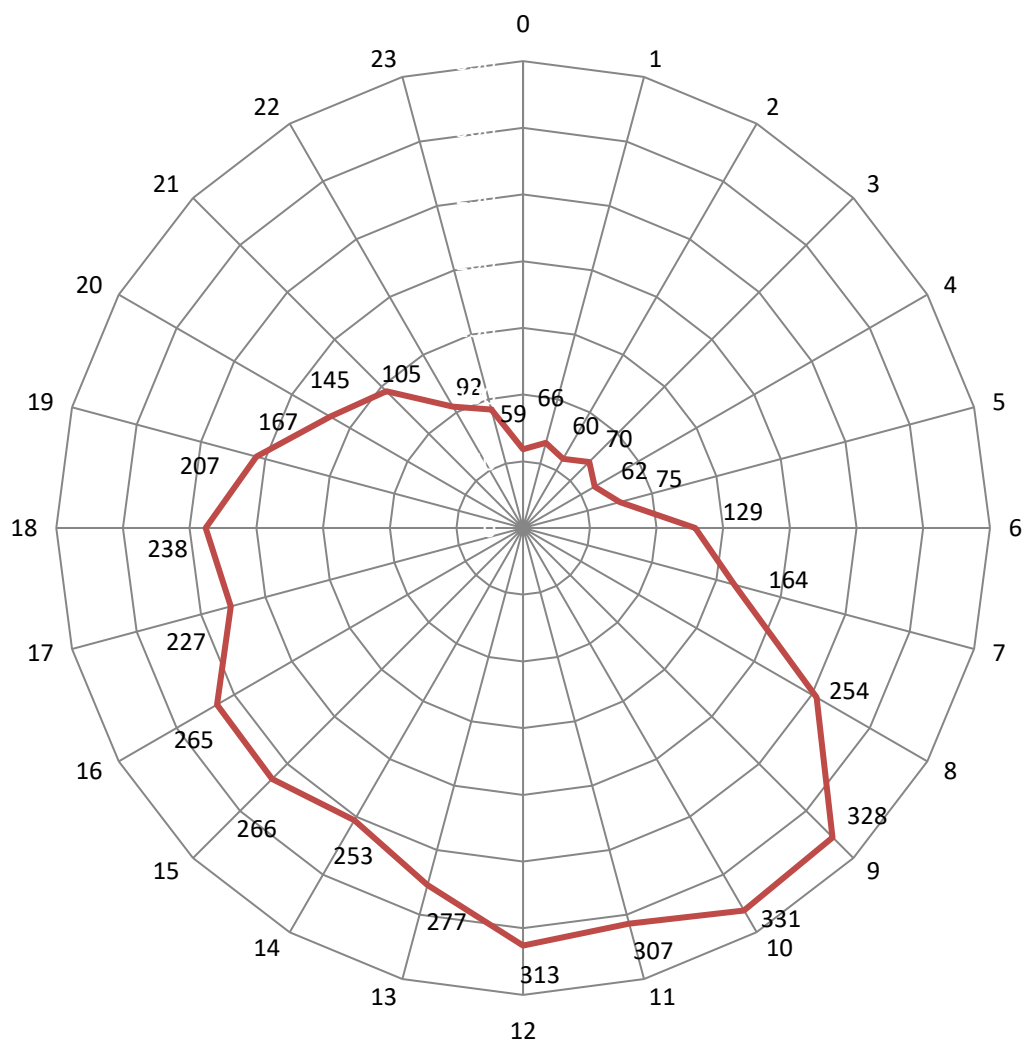


年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和4年	607	628	624	639	652	637	673	4,460
令和3年	479	565	543	565	514	569	529	3,764

時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないの0時台です。

救急出場件数 4,460件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.3分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,853件で全体の64.0%を占めています。

事故種別	所要時間					計	平均時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	19	235	1,931	657	64	2,906	8.3
一般負傷	5	75	501	188	13	782	8.1
交通事故	1	30	134	73	11	249	8.9
その他	13	87	287	107	29	523	8.6
合計	38	427	2,853	1,025	117	4,460	8.3

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は43.8分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,669人で全体の65.7%を占めています。

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	平均時間 (分)
急病	0	24	507	1,764	282	30	2,607	42.4
交通事故	0	2	15	150	73	1	241	51.8
一般負傷	0	10	96	469	155	2	732	47.0
その他	0	2	117	286	77	3	485	42.6
合計	0	38	735	2,669	587	36	4,065	43.8

事故種別救急搬送人員

急病の増加が目立っています。

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
令和4年	7	0	1	241	70	28	732	15	21	2,607	343	4,065
令和3年	1	0	2	265	69	36	643	11	11	2,150	311	3,499
増減	6	0	△1	△24	1	△8	89	4	10	457	32	566

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症2,103人（51.7%）、中等症1,810人（44.5%）、重症109人（2.7%）、死亡43人（1.1%）の順となっています。

傷病程度 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
死亡	2	0	1	1	0	0	0	0	3	36	0	43
重症	1	0	0	8	4	0	7	0	2	79	8	109
中等症	1	0	0	37	29	5	245	1	8	1,160	324	1,810
軽症	3	0	0	195	37	23	480	14	8	1,332	11	2,103
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	0	1	241	70	28	732	15	21	2,607	343	4,065

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2,682件で全体の60.1%を占め、そのうち急病によるものが80.9%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	合 計
急 病	2,171	513	79	96	47	2,906
交通事故	0	8	0	239	2	249
一般負傷	463	152	9	105	53	782
そ の 他	48	396	62	3	14	523
合 計	2,682	1,069	150	443	116	4,460

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,788人で全体の68.6%を占めています。

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
新生児（28日未満）	4	0	0	0	4
乳幼児（28日～6歳）	87	5	36	1	129
少 年（7歳～17歳）	57	22	24	18	121
成 人（18歳～64歳）	584	146	123	170	1,023
高齢者（65歳以上）	1,875	68	549	296	2,788
合 計	2,607	241	732	485	4,065

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が2,213人で最も多く、続いて整形外科、脳神経外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	152	88	314	366	393	279	1,186	1,027	79	45	4	9
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合 計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	11		22	3	11	6	49	13	7	1	2,217	1,848

高速道路における救急活動状況

高速道別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
中国道	出動件数		1	7			8
	搬送人員		1	5			6
	不搬送件数			3			3
舞鶴道	出動件数		1	1			2
	搬送人員		1	1			2
	不搬送件数						0
山陽道	出動件数		16	5	1	1	23
	搬送人員		14	3	1		18
	不搬送件数		2	5		1	8
合計	出動件数		18	13	1	1	33
	搬送人員		16	9	1	0	26
	不搬送件数		2	8	0	1	11

応急処置件数

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
応急処置						
応急処置対象人員(人)		2,607	241	732	485	4,065
止	血	12	9	69	15	105
被	覆	12	35	163	36	246
固	定	13	76	67	29	185
保	温	32	5	9	11	57
酸素吸入		470	16	24	102	612
人工呼吸		2				2
胸骨圧迫						0
心肺蘇生		70	2	6	8	86
在宅療法継続		31		2		33
血圧測定		2,514	237	715	475	3,941
聴診器		276	42	50	41	409
血中酸素飽和度測定		2,546	236	728	476	3,986
心電図測定		1,800	73	273	268	2,414
気道確保		123	6	14	12	155
経鼻エアウェイ						0
喉頭鏡・鉗子						0
* リンゲルマスク等		40	2		4	46
* 気管挿管		7	0	4		11
以外		76	4	10	8	98
除細動		8				8
* 静脈路確保		53	4	6	5	68
* うち心肺機能停止前		10	2	1	1	14
* うち心肺機能停止後		43	2	5	4	54
* 薬剤投与		31	2	2	2	37
血糖測定		13				13
* ブドウ糖投与		7				7
その他		2,576	236	736	484	4,032
合計		10,589	979	2,864	1,964	16,396

*印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数80件で前年比14件減少し、救助人員についても40名で前年比6名減少しています。

年別 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和4年	80	50	40	233	699
令和3年	94	62	46	287	896

地区別救助出動件数

三木地区が19件と最も多く、次に自由が丘地区の12件となっています。最も少ないのは口吉川地区と青山地区の1件です。

地区 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計	
三木	4	4			10	1	19	
三木南		4			5		9	
別所	1	3	2	2	1		9	
志染	1	4			1	1	7	
細川				1		1	2	
口吉川					1		1	
緑が丘	1	1			6		8	
自由が丘	1				9	2	12	
青山					1		1	
吉川		3			5	1	9	
管外							0	
その他		3					3	
合計	出動件数	8	22	2	3	39	6	80
	活動件数	8	10	2	0	24	6	50
	救助人員	4	10	2	0	17	7	40

発生場所別救助出動件数

住居での事故等が43件で全体の53.8%を占め、次に道路での事故が16件となっています。

場所 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計	
屋内	住居	5				37	1	43
	その他	3			1	2		6
屋外	高速道		3					3
	道路		16					16
	池川等			2				2
	その他		3		2		5	10
地下							0	
その他							0	
合計	8	22	2	3	39	6	80	